

日本医療薬学会 第4回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告書

第4回フレッシュャーズ・カンファランス
実行委員長 中村敏明

2021年6月7～13日(日)に第4回フレッシュャーズ・カンファランスをオンラインにて開催いたしました。本カンファランスは、薬学部の学生や大学院生、研究活動経験の浅い薬剤師などを主たる対象に、研究成果の発表の場として2017年に第1回が開催されました。それ以降、関東地区と関西地区が1年ごとの交代で開催することとていましたが、2018年の第2回は豪雨のため当日の発表が出来ませんでした。第3回は関東で無事に開催されましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大により、1年間の延期を余儀なくされました。貴重な研究発表の機会であり、これから活躍が期待される方々の交流の場でもあることから、現地開催を模索していましたが、年が変わっても新型コロナウイルス感染症の収束は見通せない状況が続いております。このため、現地での開催を断念し、オンライン開催とすることといたしました。開催方法を決めかねていたこともあり、演題募集の開始が遅れ、また、具体的な発表形式に関するアナウンスも遅れたため、参加を予定されていた皆様には大変ご迷惑をおかけしたこととお詫び申し上げます。

また、今回は発表形式を口頭発表のみとしました。事前録画したプレゼンテーションを1週間オンデマンド配信した後、ライブの質疑応答セッションにおいて、発表者と直接ディスカッションすることが出来るように工夫しました。演題数は30演題、参加登録者134名でしたが座長はじめ皆さまからの質問も多く寄せられ、活発な討論がされていました。

全発表を対象に、各セッションの発表について座長ならびに2名の審査員の計3名が採点し、各セッションの最高得点を獲得した発表ならびに、全体を通して高得点を獲得した計10演題を選出して、優秀発表として表彰いたしました。

本会の締めくくりとして、一般社団法人日本医療薬学会 会頭、大阪大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長の奥田真弘先生から「フレッシュャーズに伝えたい、医療薬学研究の進め方と論文投稿」と題して教育講演を賜りました。会頭から、具体的な研究の進め方や質を向上させるためのコツに加え、直接フレッシュャーズに向けた激励の言葉を届けていただき、参加者にとってこの上ない励みに繋がったことと思います。最後に、今回のフレッシュャーズ・カンファランスを開催するに当たり、実行委員会の皆様はもとより、大阪医科薬科大学薬学部 矢野教授、医療薬学会事務局の星様には開催方法の決定段階から運営に至るまで、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。